



## いよいよ新病棟完成に向けて始動

病院長 小林 祥泰

あけましておめでとうございます。

昨年は大学予算も医療費も仕分けにかけられて不安な年越しとなりました。マニフェスト通りに医療の充実を図って貰いたいものです。

今年の目標は来年6月の新病棟完成に向けて人材と組織の充実を図ることです。大学病院では全国初となる腫瘍センターと緩和ケア病棟の同時設置に向けて人材確保に全力を尽くすべく戦略を練っています。故石倉先生が立派に立ち上げてくれた腫瘍センターには2代目鈴宮センター長が赴任され、今年は大幅な戦力強化を図る予定です。緩和ケア専門医は全国的に人材が不足しており厳しい状況ではありますが何とか今年中にスタッフを確保するべくリクルート活動を強化します。

救急部についても診療科定員の増員を行い、橋口教授を中心に優秀な人材確保に奔走しています。すでに何人かの候補確保が出来ており、新病棟オープン時の「救命救急センター」開設の準備を着々と進めていま

す。ICU大幅増床に伴い、ICU専任スタッフも定員を増員し人材確保にも力を入れています。

昨年10月に完成したヘリポートに西部からの救急搬送も始まります。先進的なシステムの新病棟で活躍してくれる人材に期待しています。

また、このような機能の充実に伴って看護師の大幅増員が必要です。高度医療に対応する看護充実、看護臨床教育の充実のため来年度は是が非でも7対1看護体制を実現したいと思います。当院では看護協会が計画している卒後研修体制をモデル事業的に実施すべく6名の教育専任看護師を公募することにしました。大学病院は敷居が高いと思われてきましたが、専任スタッフの充実により個性を活かす教育、メンタルサポートが可能となり、早く一人前になれると同時に当院独自のキャリアアップサポートを受けることが出来ます。院内保育所を増築、女性スタッフ支援室も応援します。看護師確保にご協力のほどお願いいたします。

平成23年  
新病棟完成

## 看護師・助産師 大募集

理念 地域医療と先進医療が調和する大学病院  
目標 患者さんの視点に立った医療の提供  
安全・安心で満足度の高い医療の実践  
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成  
地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開  
地域社会に還元できる臨床研究の推進



### - 目次 -

いよいよ新病棟完成に向けて始動	1P	「出雲産業見本市2009」へ出展	10P
ヘリポート運用開始	2P	第1回円滑な地域連携のための講習会	10P
立体駐車場が完成しました	2P	医学部附属病院において消防訓練を実施	11P
クリニカルスキルアップセンターの役割	3P	文部科学省の平成21年度医学教育等関係業務功労者表彰	11P
退院支援フロー図に基づく入院前スクリーニングの結果	4P	本学学生によるクリスマスイルミネーションの設置	12P
新しい取り組み「骨盤底筋体操の試み」	5P	ミニ・エッセー「旅での出会いから - 言葉は面白い -」	12P
心臓血管外科では下腿の血行再建術を積極的に行っています	6P	病院運営委員会の報告	13P
院内がん登録の全国集計値の公表と当院のシステム改修について	6P	シンガーソングライター「より子」の院内ライブが開催されました	13P
オーラルメディシン外来について	7P	ボランティア活動について「病院ボランティアさんの表彰」	14P
褥瘡対策委員会に昇格いたしました	7P	「環境整備のボランティア」	15P
「島根県臨床研修指導医講習会」報告	8P	「コンサート等のボランティア」	16P
第3回栄養サポートチーム(NST)合宿	8P	癒しのコーナー	16P
クリニカルパスシリーズ - 整形外科の電子クリティカルパスの現状 -	9P	研修会・講演会・学会等のお知らせ	17P
		看護師・助産師大募集	18P

## ヘリポート運用開始

救急部 畑 倫明

皆さんは、島根県において今ヘリコプターの話がホットだということをご存じでしょうか。隠岐からの医師同乗救急患者ヘリ搬送は、以前から行われており、周知のことですが、これからお話することは、今までと少し違うものです。実は、ヘリに関する話は2つのことが同時進行で検討されています。

1つは、『活動地域を広げる』こと、すなわち、県西部地域へ県防災ヘリを用いて医師同乗の患者ヘリ搬送範囲を広げるということです。今まで、西部地域から長時間かけて陸路搬送してきた重症患者に対しても、医師同乗の防災ヘリを使って、こちらから迎えに行くこととなります。この防災ヘリに同乗する医師の派遣元として当大学病院が名乗りを上げました。院内のシステムが出来れば、2010年1月後半よりスタートします。

そしてもう一つ、別な話が進んでいます。それは、『活動内容を広げる』ことです。災害現場へドクターヘリとして出動したり、緊急手術に必要な医師を隠岐や西部の病院まで搬送したり、さまざまな用途が検討されています。これには、防災ヘリは使えません。県は今、新たにもう一機、医療専用のドクターヘリを導入しようと考えています。今のところ、本格導入は2011年度の予定です。これには、新病棟完成と共にスタッフ増員を予定している当院救急部が中心になって参入します。研修医諸君やフライトナースも参加予定です。皆様、参加と応援をお願いいたします。



島根県の防災ヘリコプター「はくちょう」



1月後半から供用開始予定

## 立体駐車場が完成しました

施設整備課

駐車場不足でご迷惑をおかけしていましたが、患者さん用の立体駐車場の運用を昨年11月16日から始めました。

これまでの200台余りの駐車台数が458台と2.3倍の収容力アップとなりました。

立体駐車場は3層構造となっており、2階、3階は渡り廊下を通りエレベーター（スルー型：通り抜け）に乗り、車いすの患者さんも病院玄関へ段差なくスムーズにアプローチすることができるようになりました。また2階の東端には思いやり駐車場を11台分設置しています。

交通整理員、誘導表示、回転灯等により事故防止にも努めておりますが、スピードは控えめに十分に注意して走行願います。お気づきの点があれば何なりとお知らせ下さい。患者さんの声を参考に改善を図ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

緊急災害を想定し駐車場外周に風雨を防ぐためのブルーシートを張る仕掛けや医療機器が使用できるよう

コンセント、給水設備を設置し、病院長が日頃から言われている「備えよ、常に」の意識を持ち、取り組んでいます。

また、ISO14001を認証取得している病院として、環境にやさしい電気自動車の充電ができるコンセントを1階の西端に設置していますので、ご利用下さい。



## クリニカルスキルアップセンターの役割

クリニカルスキルアップセンター 狩野 賢二

<はじめに>

本学医学部の学生及び医学部附属病院の医療従事者並びに学外の医療従事者の医療技術の習得、向上を目的として、平成21年10月1日に特殊診療施設として「クリニカルスキルアップセンター」が新設されました。当センターでは全国でも数少ない専任の講師をセンター長として配置し、医学部と附属病院の職員の連携を取って効率的な医学教育を円滑に実施しています。

<業務内容>

クリニカルスキルアップセンターでは、病院の内外を問わない心肺蘇生手技、全診療科に共通する基本手技である静脈注射、採血、聴診、血圧測定などと、診療科に特化した特殊な医療技術である分娩、前立腺触診、眼底診察などの習得および技術向上のためにシミュレータを使用した体験型学習を行います。また、模擬ICU等で医師とコメディカルスタッフのチーム医療を図るために高機能患者シミュレータを用いた実践的なトレーニングも行います。対象は、医科学学生、看護学生だけでなく、研修医、病院看護師、臨床検査技師等のすべての医療職員の参加が可能です。また、地域の医師、看護師、コメディカルスタッフの生涯教育にも活用を図ることとしています。

<保有機材>

基本手技シミュレータは11種類40体、成人から乳幼児に対応する救急蘇生シミュレータは6種類45体、特定診療科シミュレータは8種類23体を有しており、クリニカルスキルアップセンターでは、動作確認および消耗品の交換を行い学生および医療者の体験型医学教育の要望に応えます。現在のクリニカルスキルアップセンターは、看護学科棟の一室を仮の実習室として運営していますが、病院再開発事業により平成24年度に外来診療施設に整備し移転を計画しています。



センター長 狩野 賢二

<活動状況>

平成21年11月にオーストラリア「モナッシュ大学」へ2週間の研修に行き、効果的な医学シミュレータ教育の方法を学びました。モナッシュ大学では多くの関連病院がシミュレータを有しており、それぞれの施設の連携が図られていました。また、医学シミュレーション教育の特徴として通常経験できない事態の擬似経験であり、間違えることから学ぶことを重視していたことは本校の医学教育にも取り入れたいと思いました。シミュレータ施設も病院設備機材の中古品の有効活用や、マネキンの衣服・装飾品、擬似血液などを使用した臨場感の演出は教育効果の向上に有効と思いました。帰国後、すぐに学生実習でシミュレータを利用した実践的な指導ができました。また、シミュレータを使用する事業として、中国電力島根原子力発電所運転シミュレータ訓練施設の見学を行い、シミュレーション教育における他分野での経験を取り入れ相互協力を推進しています。今後、島根県健康福祉部医療対策課と協力し、島根県下の医療施設におけるシミュレータの保有状況と使用状況を調査し、島根県における医学シミュレーション教育の連携を構築したいと思えます。



看護学科実習室

各ベッドには実際の病棟と同様な酸素、吸引、ナースコールが設置してあります。



AEDトレーニング

胸骨圧迫及び人工呼吸に連動したAEDを用いる心肺蘇生トレーニングを行います。



患者シミュレータ

呼吸、心電図、血圧、SPO2、声が操作でき、シナリオによる様々な病態を擬似体験できます。下は患者シミュレータの内部構造



# 退院支援フロー図に基づく入院前スクリーニングの結果

## 地域医療連携センター

当センターが行っている業務の一つに患者さんへの退院支援、在宅・介護支援等の退院後の生活に関する支援があります。これらの支援を効率的に行うため昨年3月から看護部の協力の下に「退院支援フロー図」を作成し試行を行っています。フロー図は入院前の外来段階から退院後までの各スタッフの行動を目に見える形で平均化したもので、将来は退院支援のパスとして活用できるよう改善して行きたいと考えています。今回は、フロー図の中の入院前の段階で行っているスクリーニング状況について報告します。

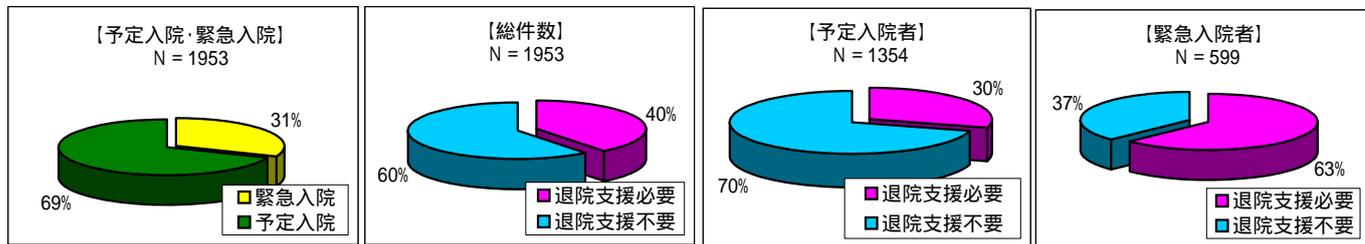
退院時期に関する情報には入院後の早い段階で患者さんに手渡す入院診療計画書があり、入院期間や検査、手術日程等が通知されています。しかし、具体的な退院の計画を立てる段階になって患者さんが早期退院を阻害する各種の問題を抱えていることが判ることも多くあり、退院が遅くなる原因となっています。このため、当センターでは早い段階で支援の必要性を把握するために入院予約時にスクリーニングを実施し、早期介入により1日でも早く在宅療養できるよう適切な支援を行っているところです。

昨年の4～9月までに行った全スクリーニング1,953件のうち40%が要支援の患者さんでした。緊急入院の患者さんでは63%が支援を必要としています。スクリーニングの結果は患者データベースに反映しており、入院された患者さんにどんな支援が必要かを把握することができた結果、当センターへの退院支援依頼件数は開始時に比べ約1.5倍に増加しました。

また、MSWへの心理社会的な相談件数も1.7倍に増えており、当センターの業務も当然繁忙を極めました。平均在院日数は徐々に短くなっておりますが、支援患者さんのうち41%が転院先を必要としており、後方病院の確保が課題となっています。これには相手先病院の事情もあって調整に苦慮しているところです。

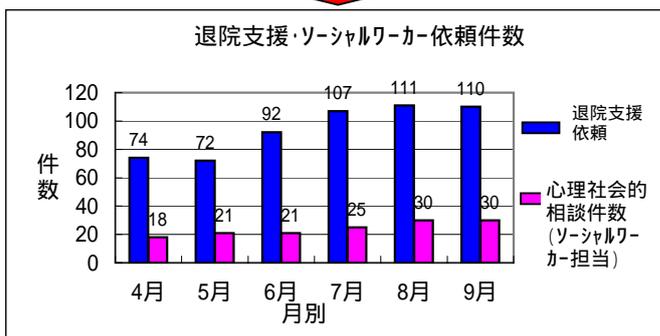
院内の各スタッフが役割を果たすことで適切な退院支援ができるものと思っておりますので、今後とも退院支援フロー図に基づくみなさまのご協力をお願いいたします。

### スクリーニング内訳 (H21.9.30現在)

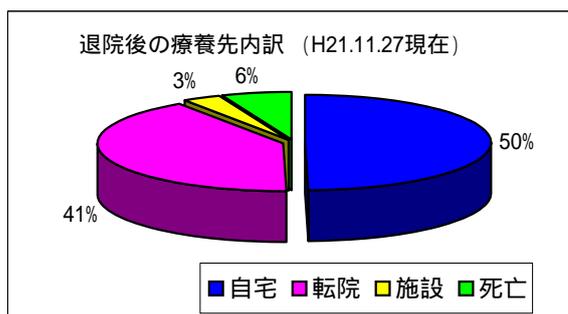
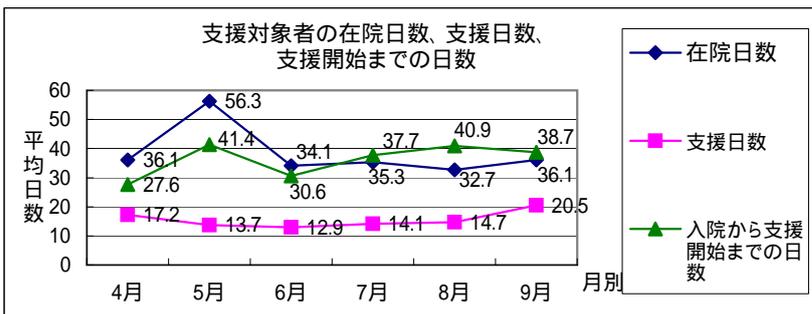


### 一般病棟全体の平均在院日数の推移 (H21年度)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
17.0	17.7	16.5	17.1	15.3	15.6



### 退院支援依頼件数 ソーシャルワーカー依頼件数 (H21.4～H21.9)

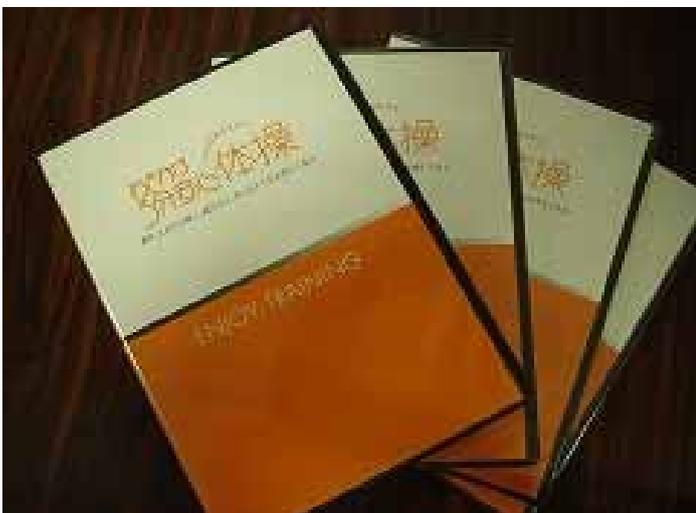


## 新しい取り組み「骨盤底筋体操の試み」

泌尿器科 本田 聡 井川 幹夫

“尿もれ”は骨盤底筋が弱まることで生じます。骨盤底筋は恥骨と尾骨の間にあって、ハンモックのように張った筋肉群です。このハンモック状の筋肉が膀胱や膣・子宮・直腸などを支え、尿道・膣・肛門を締めて、尿失禁や便失禁が起こらないようにしています。しかしながら、骨盤の中にある臓器の手術を受けた後や、出産や妊娠、老化などを契機に、骨盤底筋は弱まります。それで、この骨盤底筋を鍛えることが、“尿もれ”に有効なわけです。大事なのは日々の訓練の繰り返しですが、実際には「面倒くさい」、「時間がない」、「し忘れた」、「どうせやっても効果がない」、「年をとったのだから仕方ない」といった理由で、体操を続けられず、“尿もれ”が続いている人がたくさんいます。

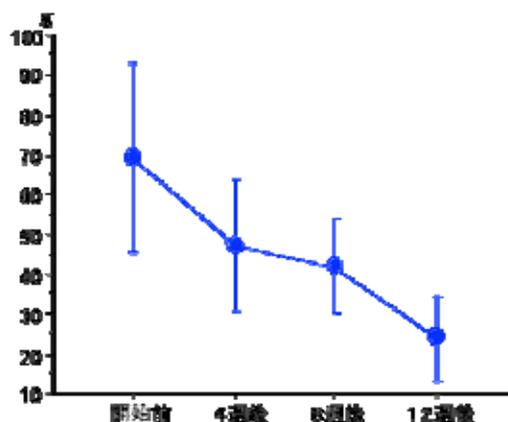
そこで我々は、「この体操を音楽に合わせて行えば継続できるのでは！」と考え、2008年12月よりTakumiVision株式会社が開発した「おでかけ3分安心体操」というタイトルの音楽CDを用いて体操を指導する試みを開始しました。



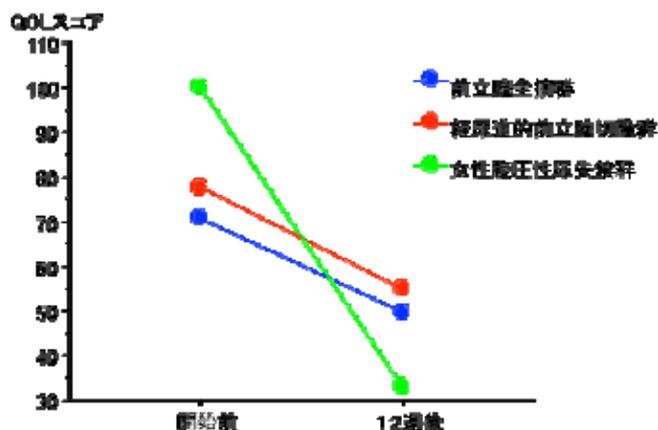
これまでに前立腺がんの手術や前立腺肥大症の手術を受けた男性、腹圧性尿失禁の女性に対して指導を行い、体操の施行状況や“尿もれ”の改善の程度、生活の質(QOL)の変化について調べたところ、1か月間の調査で1日平均5.2セットの体操を継続して行うことができ、パッドテストにおいて施行前中央値48 gに対して12週後には3 gへと尿失禁が減少、ストレス

トでは評価可能であった5名中2名が12週後に“尿もれ”なしの状態になっていました。また、QOLについてもほとんどの調査項目において改善を認めました。さらに、疾患グループ別にみると、腹圧性尿失禁の女性群において、統計学的有意差をもってパッドテストで尿失禁の減少を認めました。

<パッドテスト>



<生活への影響>



当科では、毎週火曜の午後に女性泌尿器科外来を開いております。“尿もれ”にお悩みの方がおられましたら、是非ご相談ください。

## 心臓血管外科では下腿の血行再建術を積極的に行っています

心臓血管外科 花田 智樹 織田 禎二

下肢閉塞性動脈硬化症の治療法にバイパス手術があります。多くは大腿 膝窩動脈バイパス術など膝関節周囲の動脈へのバイパス術ですが、重症の患者さんでは、より末梢の動脈へのバイパス術が必要となります。しかし、下腿の血行再建術はあまり認知されておらず、血行再建術の適応があるにもかかわらず、重症の下肢虚血に対して疼痛コントロールや下肢の切断が行われることもありました。下腿の動脈へのバイパス術が通常の下肢バイパス術と異なる点は、グラフトとして人工血管の代わりに、大伏在静脈を使用することです。下腿の血管は細いため、グラフトが閉塞しやすくなっていますが、大伏在静脈を使用することで、開存性を高めることができます。下肢切断は日常的QOLを著しく低下させ、生への意欲も喪失させるため、救肢は社会的及び医学的に急務となっています。下肢切断の回避のため、今後も下腿の血行再建術を積極的に行っていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくごお願い申し上げます。



閉塞性動脈硬化症の患者さんに行った足関節部後脛骨動脈へのバイパス術後の3DCT(矢印:大伏在静脈グラフト)

## 院内がん登録の全国集計値の公表と当院のシステム改修について

医療サービス課患者サービス室

「院内がん登録事業」については、がん診療連携拠点病院の整備指針で定められ、国立がんセンターへ登録データを毎年提出することが必須とされていることによるものです。このたび、2007年診断症例が、国立がんセンターがん対策情報センターから「がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計」[http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/hosp\\_c\\_registry.html](http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/hosp_c_registry.html) )として公表されました。全国305施設から提出があり、327,890例が収載されています。島根県がん診療連携拠点病院である本院と県内のがん診療連携拠点病院6病院の4,827例も収載されています。都道府県別・年齢階級別登録数や、都道府県別・ステージ別登録数等の各種集計表が公表されています。このデータは、国や都道府県のがん対策に役立てられるほか、本院や県内の院内がん登録実施施設のデータを全国値と比較することができ、がん診療の基礎資料として重要なデータとなります。

がん登録事業を円滑に進め、データ提出を滞りなく行うため、また、医師の作業負担が減るよう検討し、診療情報管理士が診療録記載事項から一次登録し、医師がその登録内容を確認する運用に変更しました。院内がん登録に必要な情報を漏れなく一次登録するため、退院時要約フォームへ院内がん登録用項目を追加するよう改修を進めております。このシステム改修により、院内がん登録システムへの新たな入力は不要となり、退院時要約システムに一本化できるため、医師の負担を軽減できます。追加される院内がん登録用項目は、各臓器に応じたマスタ(部位、病理組織、UICCステージ等)が展開し、選択することにより簡便に入力することができます。

院内がん登録データは、国や県へのデータ提出のほか、本院での各種研究にも役立てることができますので、その意義を十分ご理解のうえ、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

## オーラルメディシン外来について

歯科口腔外科 江川 正義

歯科口腔外科では、平成21年4月より新しい専門外来のひとつとしてオーラルメディシン外来を開設しています。あまり聞きなじみがない言葉ですが、主に外科的アプローチでは治療が難しい口腔内疾患を内科的に治療する分野です。具体的には、口腔内の粘膜疾患、乾燥症を始めとする様々な疾患でお困りの患者さんを対象として、基本的にはブラッシング指導が中心ですが、清掃補助器具、保湿剤等の選択、義歯の使用法等、歯科の観点からアドバイスできることを同時に行っています。入院中の患者さんには従来から同様の

ケアを行っています。外来患者さんに対しては、歯科衛生士によるプロフェッショナルケアを行い、当科の専門性を生かしたサポート体制を構築中です。

今後、他科と連携をとりながら、当科の専門性を生かして口腔領域に問題をお持ちの患者さんのお役に立てるよう努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

お問い合わせ 歯科口腔外科 0853-20-2394

オーラルメディシン担当 江川 正義

## 褥瘡対策委員会に昇格いたしました

皮膚科 金子 栄

褥瘡対策チームは2002年の褥瘡未実施減算を期に病院長直属の機関として発足しました。週一回の褥瘡回診を中心として活動しておりますが、皆様には日頃から活動にご理解いただき誠にありがとうございます。2009年10月にお陰をもちまして晴れて委員会に昇格いたしました。病院の機能は個々人の能力によりなりたっておりますが、最近とみにチーム医療がうたわれこのような各科および部門横断的な医療をすすめることを求められております。当院の褥瘡対策の特徴は、特に臨床栄養部門との連携の強さであり、2009年12月1日に栄養アセスメントツールが電子化されたことに併せて、褥瘡対策が必要な人の把握のためにそのツールに項目を追加させて頂いております。このことにより、入院基本料の算定要件の一つである、褥瘡対策のための評価がすみやかにできるようになりました。また、併せて褥瘡回診への依頼の方法も変更しました。先の栄養および褥瘡アセスメントツールに必要項目がありますので、従来の褥瘡依頼シートの記述を省き、

褥瘡対策外来（初診）に予約をとっていただくのみで、褥瘡回診を行うこととしました。予約は、医師のみならず、看護師もとることができます。電子カルテの技術的な問題のためまだ予約をとる画面が皮膚科の中にありますが、いずれはチーム医療などでとれるように改善してもらいたいと思っております。委員会に昇格しても、まだ皆様のご期待に沿えるような十分な活動はできていないのが現状かと思っております。特に当院には皮膚排泄ケア認定看護師が不在であり、看護師さん同士で気軽に褥瘡のケアやストーマケアを相談出来ない環境で、さらに褥瘡ハイリスク患者ケア加算（1入院につき500点）が算定できません。この褥瘡ハイリスク患者ケア加算が算定できる（要件を満たす）患者さんは60-80人/月はいると思われ、それだけで認定看護師の給料はまかなえると思われ、褥瘡対策委員会としても、切に認定看護師を必要としております。皮膚排泄ケア認定看護師の資格取得をご希望の方がいらっしゃいましたら、褥瘡対策委員会にご相談ください。

### 最近の当院の褥瘡発生状況

年度	新規褥瘡発生数	褥瘡発生率	褥瘡有病率	院内発生	院外発生
2008年	59名	0.39% (院外発生も含む)	0.39%		
2009年 (4月-11月)	46名	0.75%	1.3%	24名	22名
褥瘡学会報告 大学平均		0.98%	1.46%		

## 「島根県臨床研修指導医講習会」報告

卒後臨床研修センター 石橋 豊

平成21年度島根県臨床研修指導医講習会を平成21年11月21日～23日の日程で開催しました。島根県内の医療機関から37名の先生方の参加があり、厚生労働省の示す「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に基づき、研修カリキュラムを作成するうえにおいて必要な手順・実際についてワークショップ形式で行いました。ワークショップは7～8人のグループに分かれ、各テーマごとにスモールグループディスカッション（SGD）を行い、その後各グループの代表が発表をしました。

今年は、「地域社会が求める医師の基本的臨床能力とは」をテーマとして、地域医療の様々な問題点が明らかにされ、そのなかで指導医のあるべき姿について、非常に活発な議論がなされました。また、タスクフォースから、平成22年度からの新臨床研修制度について説明があり、加えて島根県健康福祉部の木村医療企画監から「島根県の地域医療の現状」について説明がありました。また、臨床現場における指導医と研修

医のやり取りを、“良い指導医”、“悪い指導医”、“無責任な指導医”などをテーマにロールプレイを各グループで行いましたが、このあたりから当初硬い表情であった皆さんも打ち解けた様子となり、2日目、3日目と進むにつれ議論も目に見えて活発になり大盛況のうちに終わることができました。ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。



指導医講習会全体講義・発表の様子

## 第3回栄養サポートチーム(NST)合宿

臨床栄養部 足立 経一

平成21年10月10日、11日の2日にわたって第3回NST合宿をキララ多岐で行いました。この合宿は平成19年から毎年この時期に開催しているもので、島根大学医学部附属病院・病院医学教育研究費の助成を受けて行うもので、病院長、看護部長にも参加いただき、院内ほぼすべての職種から62名の参加がありました。今回は、NSTの原点に遡って「栄養療法がどんなに大切か知ろう！」をテーマとし、これから栄養治療のことを

学ぼうとする方にも理解しやすい内容となるように工夫しました。各職種の方から栄養評価、栄養剤、咀嚼・口腔ケアなどに関わることから緩和医療、感染対策に至るまで11の幅広い内容の講義が行われ、さらにグループ学習として「症例検討」、10日の夜にはマリントラソで懇親会を行いました。参加者からの評判も好評で、この中から多くのNST専門士が生まれることを願っています。



コテージをバックに記念写真



講義風景

# クリニカルパスシリーズ - 整形外科の電子クリティカルパスの現状 -

整形外科 桑田 卓

膝疾患に関する電子クリティカルパスの原案修正(下図に一部を示す。)について、医局長から依頼を受けたのは一昨年の10月でした。それから本原稿の依頼がくるまでの1年余り、パスの運用については忘却していました。私自身がパスを利用していなかったため、他の医局員や看護師に利用状況を聞いてみたところ、唯一、看護師が従来からの紙媒体で患者さんへの説明に使用しているのみでした。

近年の医療費高騰により、政府の事業仕分けのメスは医療分野にも例外なく向けられています。このような社会的プレッシャーが高まるなか、医療界には効率

化、質の確保、情報の開示といったニーズに応えることが求められており、クリティカルパスの導入は必然的な流れといえます。

医療スタッフがすぐにでも利用したくなるような完璧なパスを、最初から作成することはできません。よいパスを作成するためには、医療スタッフや患者、システムなどの多様な条件に合わせて変更、改良を繰り返す必要があります。したがって運用しなければ何も始まりません。

まずはパス利用方法の周知と実践からスタートさせたいと思っています。

## 【前十字靭帯再建術パス】

クリニカルパス前十字靭帯再建術		新規										リテラ参照				
2009/12/25 (金)		パス		経過表		表示対象 全て		時間分割 1日単位		一日表示 10		1	2	3	AL	
フェーズ	日付	実施日未定	入院時(術前) 2009/12/25(金)	手術日 2009/12/28(土)	2009/12/27(日)	2009/12/28(月)	2009/12/29(火)	2009/12/30(水)	2009/12/31(木)	2010/01/01(金)	2010/01/02(土)	2010/01/03(日)				
入院日数	カラム		入院時(術前)	手術日	術後1日	術後2日	術後3日	術後4日	術後5日	術後6日	術後7日	術後8日				
アウトカム			術前診断の確定 周術期指示の完了	手術の進捗が分かる	手術後の合併症 がおきない	免荷で車椅子移動ができる										
到達目標			手術の進捗が分かる	手術後の合併症 がおきない	免荷で車椅子移動ができる											
説明情報			画像評価 カンファレンス 内容の検討													
記載	診療録 院内紹介 コチ+加記載 薬剤管理指導															
	その他			<input type="checkbox"/> 現病歴 <input type="checkbox"/> 神経学的所見、JOAスコア、半月、靭帯スコア <input type="checkbox"/> 画像所見 <input type="checkbox"/> 入院診療計画書 <input type="checkbox"/> 術前説明 <input type="checkbox"/> 麻酔科(ハイリスクで未受診の場合) <input type="checkbox"/> 薬剤管理指導依頼	<input type="checkbox"/> 神経学的所見 <input type="checkbox"/> 手術記録 <input type="checkbox"/> 術後説明											
検査	検体検査 病理検査 生理・内視鏡 放射線		<input type="checkbox"/> 心電図 <input type="checkbox"/> 画像検査(外来で未施行のもの) <input type="checkbox"/> 手術時レントゲンオーダー <input type="checkbox"/> 術後MRI、CT											汎用検査		
薬剤	処方 注射		<input type="checkbox"/> 経下剤、鎮痛剤、その他 <input type="checkbox"/> 術前、術後注射													
治療・処置	治療・処置			手技: 腫瘍検査 経症予防管理(入院1回のみ) 手技: 湯腸	手技: 創傷処置 (100cm以上 500cm未満)							手技: 術後創傷 処置(100cm未満 (術後14日以内)) 手技: OPM (消炎 鎮痛剤処置(器具等による療法))	手技: OPM (消炎 鎮痛剤処置(器具等による療法))			
食事	食事			食事: 朝 2回 夕食												
医師指示	医師指示															
看護	活動・安静度 清潔 排泄		シーツ交換 シャワー浴		清拭		シャワー浴						シャワー浴			
看護	教育・説明		入院時 初エグゼシ 歩行訓練 術前初エグゼシ	生活制限に関する初エグゼシ	生活制限に関する初エグゼシ	関節可動域訓練				食事指導			清潔指導	生活リハビリの プログラム		
看護	観察		排泄回数 安静度 巡視 食事摂取量	安静度 疼痛 循環 (Ns)VS測定 (毎2項目) 運動	安静度 (Ns)VS測定 (毎2項目) 疼痛 循環 (Ns)VS測定 (毎2項目) 運動				(Ns)VS測定 (毎2項目)							
予約	その他															
入退院	入退院															
輸血	輸血															
リハビリ	リハビリ															

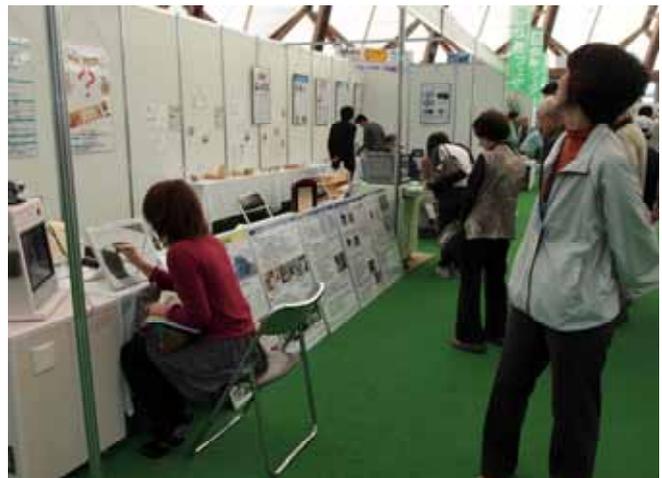
## 「出雲産業見本市2009」へ出展

産学連携センター 地域医学共同研究部門 中村 守彦

11月7、8日に出雲ドームで開催された「出雲産業見本市2009」（出雲市主催、島根大学産学連携センター後援）に出展しました。医学部附属病院からは、遠隔地医療で活躍している「双方向通信システム・ミュー太（医療情報部・山陰電工）」、地域資源を活用した「ヒノキでできた腰痛緩和ベッド（リハビリテーション部・荒木建具店）」、腹囲の低減を実証した「テビロン転倒予防靴下（臨床栄養部・帝健）」を紹介し、多くの来場者がブースを訪れました。これらは「学」が地元企業の「産」と連携して医学部が有するシーズを社会に還元した事例です。

国の活力は地域の元気の上に成り立ち、地方大学の役割は益々、大きくなっています。平成18年に制定された教育基本法（大学）では「大学は、・・・（中略）・・・新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会へ提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と謳われています。科学技術による地域活性化が求められる中で、医師不足が深刻な島根において遠隔地医療を皮膚科外来で補助している「ミュー太」は、地域性をかんがみだ研究開発の賜物と言えるでしょう。自然の香りを放つ「ヒノキ腰痛緩和ベッド」を附属病院の休憩室に展示していましたが、体験された患者さん・ご家族で購入を希望される方々も少なくありません。一方、島根大学ではナノテクノロ

ジーを駆使して先端医療の実現を目指しており、地域医学共同研究部門からは「酸化亜鉛を活用したナノメディスン研究」を出展しました。ベビーパウダーにも使用されている安全な酸化亜鉛ナノ粒子を利用して、「がん」を早期発見する技術開発です。島根県東西部から高校生（理数科1年生）たちを迎えて、ここに紹介した研究成果を実体験するフィールド学習を開催しており、科学の素晴らしさを知ることができ、医学に興味を持ったとの声が多く寄せられています。



島根大学の展示ブース(手前が双方向通信システム、後方はヒノキベッド)

## 第1回円滑な地域連携のための講習会

臨床栄養部 足立 経一

平成21年11月7日（土）に円滑な地域連携のための講習会を島根大学医学部臨床大講堂で開催しました。

この会は、出雲・斐川・雲南・大田地区の介護施設や在宅ケアセンターの看護師・介護職員の方を対象に、患者さんの看護やケアと一緒に学んでいこうという趣旨で、島根大学医学部附属病院・病院医学教育研究費の助成を受けて行ったものです。第1回の今回は、院外から76名、院内から9名の計85名の参加者があり、胃瘻に関わることを主テーマとして行いました。医師から「胃瘻の管理について」、栄養士から「各種合併症を有する患者における胃瘻からの栄養管理」、言語聴覚士から「誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア」、薬剤師から「薬剤の簡易懸濁法」の講演を行い、栄養士を中心に「栄養剤の胃食道逆流に対応するための栄養剤の半固形化の実際」として講演と実技（図）を行いました。

来年度も地域の看護師や介護職員の方の関心のあるテーマを選んでこのような会を行っていく予定です。



栄養剤の半固形化の実技を行っているところ

## 医学部附属病院において消防訓練を実施

本学医学部附属病院において、昨年11月11日（水）の午後、毎年恒例の消防訓練を実施しました。

訓練は、午前2時に5階西病棟の器材室から出火したとの想定で本番さながらに行いました。火災報知器の警報音を聞いて駆けつけた看護師が火元を確認、非常電話で防災管理センターへ連絡し消防署へ通報しました。

また、医師や看護師が仮想患者の職員の腕を抱えて避難誘導をしたり、担架搬送で病室から避難場所に運び出す避難訓練も行ないました。

一方、通報を受けた出雲消防署からは、3台の消防車両が出動し、5階から消防士及び本学部自衛消防隊による放水訓練が行われたほか、逃げ遅れて不明の仮想患者2名の捜索、救出訓練も行われました。

本学医学部及び病院職員にとって、毎年この訓練を

### 施設整備課

実施することは、防火防災の意識の高揚、消火設備等の取扱い技術の習得等に大いに役立つものとなっております。



病棟での担架搬送

## 文部科学省の平成21年度医学教育等関係業務功労者表彰

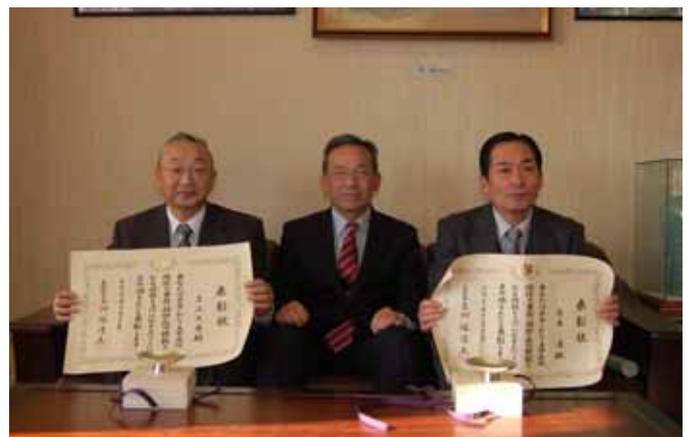
このたび、医学部医療サービス課療養費債権管理員の土江久美さんと医学部附属病院材料部医療機器操作員の古本 清さんが、文部科学省の平成21年度医学教育等関係業務功労者として表彰されました。

この表彰は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に従事している者で、同一職種の業務に20年以上従事し、またその功労が顕著であり他の模範となっていること等の基準を満たす者を対象とするものです。

お二人は、当院開院当初から患者給食業務に長年精励されるとともに、現在、土江さんは療養費債権管理員として、また、古本さんは医療機器操作員として多忙な業務に従事し、患者サービスの向上に貢献されたことが評価されました。

表彰式は、11月25日に東京で行われ、12月1日にお二人は医療サービス課長とともに学長室を訪れ受賞を報告されました。

### 総務課人事管理室



山本学長を囲んで土江さん(左)と古本さん(右)

## 本学学生によるクリスマスイルミネーションの設置

医療サービス課患者サービス室

平成21年12月14日（日）から12月25日（金）の間、病棟南側庭園の藤棚に入院患者さんに楽しんでもらおうと本学学生がクリスマスイルミネーションを飾りました。

これは、一昨年から始まり恒例となっているもので病棟から見える幻想的でロマンティックな光の風景は患者さんや訪れる人達への一足早いクリスマスプレゼントとなりました。



## ミニ・エッセー 「旅での出会いから - 言葉は面白い - 」

耳鼻咽喉科 川内 秀之

一年に何回か国際会議のため渡航する機会がある。年齢を重ねるにつれ、米国よりヨーロッパの旅に心が躍る。乗り継ぎは、北欧の時はパリ、南欧の時はミラノと決めているが、日程の合間を縫って、ルーブル美術館（パリ泊）や、北イタリアのコモ湖畔やマッターホルンの麓の街チェルマット（スイス）を訪ねている。ミラノで乗り継ぎする時は、チェルマットに電車で向かい、マッターホルンの頂を近くから眺望し、きれいな空気を楽しんで、帰国の途に着く。

30歳代前半の米国留学の際に母親代わりになってくれた研究室の技官(Atha Ralston)のお蔭で、英語で不自由することはなくなったし、シェークスピアの戯曲を原語で楽しめるようになった。ドイツ語は、医学部教養時代に2年間ドイツ人宣教師にしぼられたせいで、何とか短い会話程度ならこなせる。

スイスジャーマンは、"さよなら"をaufwiedersehenではなく、aufwiederlogenと言うんだとチェルマットホフホテルのコンサージュが教えてくれたのを覚えていて、チューリッヒの小さな骨董品の店に入り、店のオーナーの年配の夫婦にaufwiederlogenと言ったら、話がはずみ、特別にお土産を頂いたこともある。

一人旅が多いので、電車での移動は好んで2等の車両に乗り、乗り合わせた人達と話をする。たいていは、食文化、芸術、歴史などが共通の話題となり、交流のための言語となる。一昨年、フィレンチェからローマへの電車の中で、イタリアのオペラ歌手の話からナポ

リの人たちと話がはずみ、イタリアでも地方によって人間の特性が違い、ローマ人よりナポリ人(Naples)の方がずっといいぞという風な調子で名刺まで貰う始末である。そういう交流から、次々に新たな楽しみが増えてきて病みつきになる。

新型インフルエンザ(H1N1)の世界的なパンデミックとは比べるべくもないが、国内外の不景気で閉塞した憂鬱が蔓延している時こそ、ポジティブに生きる意味を考え直す機会や趣味を持つべきと思うのは小職ばかりではあるまい。



ギリシャのクレタ島イラクリオンの街の魚屋さんです。イワシやイカや小エビなどが安い値段で置いてあり、魚屋のおやじさんは英語は無理でカタコトのギリシャ語と指で会話しています。

## 病院運営委員会の報告

### 平21年10月21日 特殊診療施設副部長の就任

職名	氏名	任期
新生児集中治療部副部長	内田 由里 助教	平 21.11.1 ~ 平 23.3.31

### 平21年11月18日 特殊診療施設副センター長の就任

職名	氏名	任期
地域医療連携センター副センター長	白澤 明 助教	平 21.11.18 ~ 平 23.3.31

### 平21年12月16日 副診療科長の交代

診療科名等	新	旧	任期
麻酔科	中谷 俊彦 講師	土井 克史 准教授	平 21.1.1 ~ 平 23.3.31

### 平21年12月16日 病棟医長等の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
精神科神経科	外来医長	宇谷 悦子	安田 英彰	平 22 年 1 月 1 日
	病棟医長	河野 公範	岡崎 四方	
眼科	外来医長	松岡 陽太郎	小山 泰良	平 21 年 12 月 1 日
	病棟医長	高井 保幸	松岡 陽太郎	

## シンガーソングライター「より子」の院内ライブが開催されました

### 医療サービス課患者サービス室

昨年11月10日（火）夜、医学部附属病院 外来1階 待合ホールで、小児ガンを患った経験を持つプロのシンガーソングライター より子さん の院内ライブが開催されました。

より子さんは、1984年生まれで、2歳から5歳まで小児ガンを患い、病院でその幼少期を過ごされました。その頃、お母さんにももらったディズニーのカセットテープと手元にあったおもちゃのピアノがきっかけで音楽的才能が開花し、2004年10月メジャーデビュー、順調に続けていたアーティスト活動でしたが、2006年4月22歳の時、卵巣腫瘍を患われ再入院、予定されていたツアーは全てキャンセルとなりました。

そんな経験を通して「生きる」ことへの強い思いを込めたメッセージを伝える活動を続けているシンガーソングライターです。

院内ライブでは、入院患者、医療スタッフ、学生など約150人が集う中、愛しい人への思いをつづったオリジナルの「星に願いを」など計7曲がピアノ弾き語りで披露されました。

また、観客の盛大な拍手に応えたアンコール曲では、アカペラによる「アメージング・グレイス」の素晴らしい歌声を聴くことができ、感動のひと時でした。



( 下段の写真は朝日新聞社から提供を受けたもの )

## ボランティア活動について

### 病院ボランティアさんの表彰

医療サービス課患者サービス室

本院のボランティア活動要項に定める活動を行い、患者サービスに功績のあった個人、団体に対し、去る平成21年12月24日（木）、小林病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました。栄えある受賞者は、次の方々です。

#### 1. 表彰者

病院付近の環境整備等奉仕作業をして頂いた団体

- ・出雲シルバー人材センター 代表 成相 栄一
- ・出雲土建株式会社 代表取締役 石飛 裕司
- ・天理教災害救援ひのきしん隊島根教区中部支援隊 代表 来間 昭次
- ・天理教島根教区中部支部出雲組 代表 石橋 祐二

#### 2. 感謝状贈呈者

(1)病院玄関ホールで毎月開催するボランティアコンサートの補助をして頂いた方

- ・若山 和明
- ・三澤 和樹

(2)本院小児科病棟入院中の子どものために、河川敷で花火を打ち上げて頂いた方

- ・多々納 恒宏

(3)ボランティアコンサートを実施して頂いた団体・個人

- ・アンサンブル合歓の木による大正琴演奏会 代表 岩井 京子
- ・出雲高校弦楽部によるボランティアコンサート 代表 顧問教員
- ・ぼこあぼこ「ぼこコンサート」 代表 錦織 三佐子
- ・病院で楽しむコンサート 南木 千絵
- ・大月箏曲教室「新春 琴コンサート」 大月 邦弘
- ・コールメリー合唱団による「訪問コンサート」 代表 石橋 泰
- ・平田雲州芸能のみなさんの病院訪問 代表 森脇 将行
- ・木次乳業軽音楽同好会 ギタレンジャー「ギター弾き語りコンサート」 代表 川本 英二
- ・フローラ室内楽団による演奏会 代表 医学部学生 岡本 佳子
- ・ピアノ弾き語りコンサート 代表 飯国 優子
- ・ヴィブラコール・グリーンエコー・藤井慎一「合唱とホルンの調べ」 代表 江田 和子
- ・デュオ・ラ・メール「クラリネットとピアノのアンサンブル」 代表 小村 みゆき
- ・くつろぎコンサート 林 ひろみ

(敬称略)

贈呈式終了後、引き続き、ボランティアさんとの懇談会が行われ、皆さんから様々な提案や意見をいただきました。



小林病院長から表彰を受ける  
ボランティアの方々

多くのボランティアの方々に環境整備のために作業を行っていただきました。島根大学医学部附属病院が地域に根ざした病院となるために、地域住民の方々と共に作り上げていくことが必要であることをボランティア作業から改めて学ぶことができました。

### 1. 天理教災害救援ひのきしん隊のボランティア活動

平成21年10月2日（金）天理教災害救援ひのきしん隊 島根教区隊中部支部隊（隊長 来間昭次氏）のみなさんにより、附属病院南側リハビリ広場周辺の草刈り等による環境整備を行っていただきました。

当日はあいにくの雨模様にも関わらず、16名の方々が午前9時から午後3時まで6時間にわたり広範囲に及ぶ環境整備に汗を流していただきました。

天理教災害救援ひのきしん隊 島根教区隊中部支部隊のみなさんは平成14年から継続してボランティアで環境整備を行っていただいております。



病院南側リハビリ広場での活動(ひのきしん隊)

### 2. 出雲市シルバー人材センターのボランティア活動

出雲市シルバー人材センターのみなさんにより、平成21年10月17日（土）附属病院正門付近を草刈り等の環境整備を行っていただきました。

早朝午前7時から9時過ぎまで2時間にわたり、60歳代・70歳代の30名の方が環境整備に汗を流していただきました。

出雲市シルバー人材センターからは、平成15年から毎年ボランティアで環境整備を行っていただいております。医学部から施設総務担当と一緒に作業を行っています。



病院玄関付近での活動(出雲市シルバー人材センター)

### 3. 出雲サポート会のボランティア活動

平成21年11月7日（土）出雲サポート会（佐々木雄三会長 参加企業 30社 約450名）のみなさんにより、ボランティアで附属病院正門、西門周囲をはじめ、病棟南側の庭園から看護師宿舎にいたる広範囲において、除草、樹木の剪定等の環境整備を行っていただきました。

当日は、途中から雨模様となりましたが、11月上旬にしては気温も高めのなか、午前8時30分から午前10時まで総勢約450名の方々が環境整備に汗を流していただきました。また、出雲土建(株)グループの方々は、午後4時までと長時間にわたり作業をしていただき、普段の仕事でも環境整備に携わっている方も多く、段取りも良く丁寧に作業してくださり、とてもきれいになりました。

一昨年は、1企業グループの方々約120名でボランティア活動を行っていただきましたが、今年は多くの企業等のみなさんに呼び掛けをしていただきました。



作業前の説明を受ける出雲サポート会のみなさん



病院正門付近での活動(出雲サポート会)

## コンサート等のボランティア

医療サービス課患者サービス室

ボランティアコンサートの報告

H21.10.8 合唱団ラーナ・エコーのコーラスとハンドベル



H21.10.29 アンサンブル合歓の木による大正琴演奏会



H21.11.4 島根大学教育学部音楽研究会による木管五重奏団コンサート



H21.12.24 島根大学混声合唱団によるクリスマスコンサート



## 癒しのコーナー

### 我が家のペット

まるお 2歳 (マルチーズ)  
やんちゃで外出大好きです。  
好物はさつま芋です。  
特技は二足歩行です。(右の写真)  
(医療サービス課 近藤雅文さん提供)

癒しのコーナーとして「我が家のペット」を紹介しています。かわいいペットの写真と簡単なコメントを添えて編集委員会へお寄せください。

## 研修会・講演会・学会等のお知らせ

### 看護部

名称	静脈注射に関わる基礎研修
日時	平成 22 年 1 月 17 日(日) 13:00-14:30
場所	ウェルシティ島根
対象者	附属病院看護師・助産師
内容	「認定看護師に学ぶ 中心静脈ポートを管理するために必要な知識と技術」 講師 国立大学法人 徳島大学病院がん化学療法認定看護師 三木 幸代
連絡先	看護部 看護管理室(0853-20-2478)

名称	平成 21 年度 新卒看護師体験発表会
日時	平成 22 年 2 月 15 日(月) 17:00-19:00 平成 22 年 2 月 16 日(火) 17:00-19:00
場所	臨床小講堂
対象者	附属病院看護職員, 新卒看護師出身校の教職員
内容	新卒看護師体験発表会
連絡先	附属病院看護部教育委員会(0853-20-2478)

### 地域医療連携センター

名称	地域医療連携講演会
日時	平成 22 年 3 月 6 日(土) 15:00 ~
場所	国立病院機構 浜田医療センター
対象者	医療従事者の方、地域住民の方、行政関係者の方
連絡先	地域医療連携センター(0853-20-2068)

名称	平成 21 年度島根県がん相談員等研修会
日時	平成 22 年 1 月 9 日(土) 9:30-16:30
場所	看護学科棟(N12 番講義室)
内容	「がん患者・家族の心理社会的サポート」演習とロールプレイなど 講師:東札幌病院 MSW課 田村 里子
連絡先	地域医療連携センターがん相談部門 (0853-20-2518)

### 地域医療教育研修センター

名称	平成 21 年度初期・後期臨床研修ガイダンス
日時	平成 22 年 2 月 11 日(木) 12:00 ~
場所	パルメイト出雲
対象者	初期・後期研修医、医学科学生
連絡先	地域医療教育研修センター

### 島根大学医学部がんプロフェッショナル養成プラン 銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム

名称	がんプロフェッショナル養成プラン講演会
日時	平成 22 年 1 月 12 日(火) 18:00-19:30
場所	臨床小講堂
内容	「プレゼンテーションの基本から魅力的な仕掛けまで - 画像診断領域を例に -」 講師: 獨協医科大学 放射線医学講座教授 楢 靖
連絡先	呼吸器・化学療法内科

### 腫瘍センター

名称	第 2 回がんに関する市民公開講座～いっしょに考えましょう がん医療 in 浜田
日時	平成 22 年 3 月 13 日(土) 13:30-16:00
場所	浜田医療センター 2F 総合研修センター
内容	第一部 講演会 島根大学医学部附属病院腫瘍センター長 鈴宮 淳司 国立病院機構浜田医療センター消化器外科 栗栖 泰郎 島根大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科 板倉 正幸 第二部 がんに関する質問コーナー
連絡先	腫瘍センター

注)島根県内で開催されるもの若しくは本院が主催するもので平成22年3月までの予定を掲載しています。



### 編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。  
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてほしいニュース、PRなどを編集委員会へお寄せください。

担当

医療サービス課 医療支援室(内線2068) Email: renkei@med.shimane-u.ac.jp  
(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)

# 新病棟完成!に向けて 看護師・助産師 大募集!!



明るく、ほからかで、看護が好きな私たちと一緒に働きませんか

クリニカルラダーの到達目標に沿った研修を  
 企画しています。



協働して  
**〈自律した看護職〉**  
 を育成します。

新卒者・経験者に関  
 わらず、卒後臨床教  
 育専任スタッフが  
 支援します。



技術研修



リフレッシュ研修



海外研修

働きやすい職場を目指した  
**ライフサポート**  
 があります。

- 2交代・3交代勤務
- 認定看護師奨学金制度
- 学内大学院進学
- 看護師宿舎(全個室・無料)
- カウンセラーによる支援
- メンター制度
- 院内保育所(病児保育有り)

など

## インターンシップ

- 平成22年 3月23日(火)・24日(水)
- 平成22年 8月10日(火)・11日(水)

※先輩看護師との交流会もあります。

## 病院見学・ 病院説明会【随時】

※保護者の方の同伴も可能です。

初任給(正職員)

.....短大3卒.....  
**242,000円**から  
 (主要手当を含む。)



2011年  
 新病棟  
 完成!!